

開発リソースの少ない事業でも成功するための

モジュラーデザイン 実践セミナー

開催日時

2025年 6月18日(水)
2025年12月 5日(金)

大阪会場

オンライン選択可

オンライン

各回とも 10:00～17:00

対 象

・開発・設計・生産技術部門の方
・企画・営業・サービス部門の方

・製造部門・調達部門の方
・品質向上・標準化に関わっている部門の方

講 師

柏木 茂吉 氏 / 中川 翔太 氏
(株)日本能率協会コンサルティング
R&Dコンサルティング 事業本部

参加料(税込)

法人会員：55,000円/1名
会 員 外：66,000円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認
ください。 <https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込み
ください。

ね ら い

一般的に、中堅企業や個別受注型の事業では多品種
少量生産対応が多く、モジュラーデザインが成功すれ
ば大きな成果が期待できます。

ところが、多品種少量生産では、従来のモジュラー
デザインの取り組みでは上手くいかない、と言われてい
ます。

実は、量産品より多品種少量生産品の方が、モジュ
ラーデザイン導入の難度は高いのです。しかも多品種
少量生産では相対的に開発リソースが少ない事が多い
です。

多くのモジュラーデザインの先行的事例は量産品です。

そこで、本セミナーでは、モジュラーデザインの基本
的な考えを正しく学んでいただき、多品種少量生産など
での失敗ケースを解説したうえで、効果的なモジュラー
デザインの推進を学んでいただきます。

限られた開発リソースのもとでモジュラーデザインを
成功させたい方におすすめのプログラムです。

このようなことでお困りではないですか？

- ✓ 多品種少量生産のためモジュラーデザインの進め方がわからない
 - ✓ 生産まで含めた総合的なモノづくりの効率化を考えたい
 - ✓ 調達・サプライチェーンの制約が多く、多品種少量生産対応に限界を感じる
 - ✓ 個別対応をする必要があり、モジュール化が定着できない
 - ✓ 設計部門は個別対応に追われ、モジュラーデザインを構想できてない
 - ✓ モジュラーデザイン以前のさまざまな課題も合わせて解決する必要がある
- 「個別受注・中堅企業」に適したモジュラーデザインの推進手法を適用
すべきです！

参加者の声

- ・「標準化率」という言葉に縛られている現状を変えるコメントを聞いた
ことが大きい。
- ・事例の紹介が多く、イメージしやすかった。社内では「設計効率化」の
イメージが強かったが、生産までの連携が必要なことを示されていて、
社内での説明がしやすくなりました。
- ・導入に当たっての問題点や注意点がわかりやすくまとめられていた。失敗
例を加えて分かりやすく説明してくれたのが参考になった。
- ・単純にモジュール化しただけでは、コスト減にならない場合があること
について深く納得するとともに、これを回避することの重要性を学んだ。

■ プログラム

10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

1 グローバル事業での競争力最大化の考え方 ～ モジュラーデザイン導入の目的 ～

- ・先進国とは「商品力」、新興国とは「コスト」で戦う日本企業
- ・商品力とコスト競争力の両立を高度に実現するには

2 モジュラーデザイン3.0とは ～ 一般概念から最新の取り組みまで ～

- (1)モジュール化のさまざまな取り組み
各手法の特徴や目的、開発の背景や経緯を理解します
 - ①部品種類削減を主体とした生産革新
 - ②製品アーキテクチャの構造化による開発革新
 - ③開発・生産のシナジーを狙った統合的な同時革新
- (2)モジュール化の失敗ケースから学ぶ

3 モジュール化の成功ポイント

- (1)インテグラルモジュールによる商品力向上と開発効率の
同時実現

- (2)モジュール生産方式による製品品質とコスト競争力の同時
実現(生産技術・製造との連携高度化)
- (3)事業戦略革新(顧客バリュー追求と開発プロセス効率化)
- (4)個別受注におけるモジュラーデザインの進め方

4 導入前に有効なモジュラーデザイン診断

- ・開発プロセスやモジュラー生産方式の構想立案・効果予測
による課題の明確化
- ・マスタープランと課題対策の方向性
- ・自社でできる問診票による簡易診断

5 モジュラーデザインの推進ツール

- (1)DSM (Design Structure Matrix)
 - ・製品構造等を要素に分解し、要素間の相互作用を見える化
することで、モジュール構造の最適化検討に活用します。
- (2)すぐに使えるフォーマット集
 - ・プラットフォーム構想やモジュールマップなど、モジュラー
デザインの検討に即活用できる書類をご紹介します。

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

